

第3学年1組 社会科学学習指導案

平成24年 9月19日(水) 第2校時
場所 3年1組教室 指導者 櫻村弘一郎

1 単元名(小単元名) 人間の尊重と日本国憲法

2 単元(小単元)設定の理由

(1) 生徒観

比較的素直な生徒が多く、おおよそ教師の指示に従い行動することができる。学習課題に対しても興味を持って取り組むことができる。提示された課題がやや難解なものであっても、自分なりに考えようという意欲も見られる。一方考えたことを発言する段階になると、5名程度の生徒に発言が偏る傾向がある。また、発言内容の個人差も大きく、学習課題の本質に迫る発言もあれば、思いつきのような発言も見られる。多様な発言を認めようとする雰囲気があるので、より本質に迫れるような発言の出来る生徒を増やすことが課題である。

(2) 教材観

この小単元は、幾多の困難を経て獲得された人権について考える、非常に重要な単元である。学んだことが日常生活に直接関わることもあるため、生徒も関心を持って取り組みやすい教材でもある。同時にこの教材を通じて、人権があるから何をしても良いのではなく、人権の限界の存在について、自分なりに考え方を確立させることもできる。一方知識的内容も非常に多く、ややもすると知識を羅列的に教えることに終始してしまいがちな単元である。

(3) 指導観

この単元は話し合いを行うためのテーマがあふれている。私たちが将来必ず突き当たるであろうテーマについて、平等権から新しい人権までさまざまなテーマで話し合いを持たせることで、学んだことを生かす場面を増やしていきたい。特に、私たちの身近な生活における人権を巡るできごとを学習課題に設定することで、人権の問題を自らのこととしてとらえさせ、人権を当たり前のこととしてとらえがちな生徒たちに、立ち止まってじっくり考える場を提供していきたい。話し合いの前提としての知識的な内容の理解との両立が課題である。

なお、新学習指導要領で重視されている言語活動について、この単元では次の点を工夫した。①単元の1時間1時間でそれぞれ小さなテーマを設定し、授業ごとに自分の考えを書かせる場面を設定する。②いくつかの授業でそれを発表させ、表現させる場を設定する。③発表した内容についてお互いに質問したり、聴き合うことでお互いの考えを知り、多角的な視点を持たせる時間を設定する。④グループ学習を取り入れることで、全体では発言しない生徒にも話し合いへの参加を促す。

3 学習活動と評価の計画(小単元の総時数18時間)

時間	学習活動	観点別目標			
		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
10	自由権の性質を理解する	自由が侵害される例を考えることができる。			自由権の構造について理解することができる。
11 (本時)	経済活動の自由と公共の福祉について話し合う		自由権の制約はどの程度許されるか自分なりに考えることができる。		公共の福祉の概念を理解することができる。
12	社会権が私たちの生活をどこまで保障するか考える			教育にかかる費用について計算することができる。	社会権の構造について理解することができる。

4 研究主題との関連

「自ら学び、社会にはたらきかける力を育成するための社会科の授業はどうあればよいか」～社会的事象どうしを関連づける力を育てる授業の工夫～

○社会で争点となっているような学習課題を設定することで、主権者としての意識を高められるようにした。

○人権相互間における共通性と相反する側面などに気づかせる活動を意図的に取り入れ、関連に気づかせることができるようにした。

5 本時のねらい

「公共の福祉」による経済活動の自由はどの程度まで制約されるのか、根拠に基づいて自分なりの考えをまとめることができる。

① 公共の福祉の概念と、どのような場合に適用されるのか理解することができる。

(知識・理解)

② 公共の福祉によって制約を受ける経済活動の自由について、身近な事例から考え、根拠に基づいて話し合うことができる。

(思考・判断)

6 準備物 教科書、ノート、まめテスト用紙、

7 学習過程

段階	学習活動・内容	形態	時間	教師の支援と 評価(方法) 言語活動充実の工夫(手立て)
課題把握	<p>1 小テストを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・自由権の内容 ・公共の福祉の概要について質問に答える </div> <p>2 本時のねらいを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>経済活動の自由と公共の福祉の関係を考えよう</p> </div>	一斉	5 3	<p>○毎時間必ず行っているまめテストを実施し、基礎学力の定着を確認する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>できるだけ語句説明問題を出題し、単純な一問一答にならないようにする。</p> </div> <p>○ねらいを明確化し、生徒の意識を集中させる。</p>
課題解決	<p>3. 課題を追究する。</p> <p>(1) 公共の福祉の詳しい内容について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の人の人権を侵害してはならない ・社会の共同生活のために制約を受ける <p>(2) 経済活動の自由が公共の福祉によって制限されるのはどのような場合なのかを、具体的な事例をもとにして考える。</p> <p><写真資料の読み取りから></p> <ul style="list-style-type: none"> ・命に値段を付けている ・セールが行われている ・売れ残ったペットはどうなるのだろうか <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ペットの売買を禁止すべきではないか。</p> </div> <p><想定される論点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険な動物の売買 ・動物と人との共存 ・お金儲けの倫理 ・社会への悪影響 ・税金の使われ方 ・職業選択の自由 	一斉 個別 ↓ 班 ↓ 個別	3 5	<p>○時間を掛けすぎず、基礎的・基本的な知識の定着を図れるよう、公共の福祉の内容のみに絞って説明する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>公共の福祉の概念と、どのような場合に適用されるのか理解することができたか。 (ノート記入)</p> </div> <p>○自由権を制限する際用いられる「公共の福祉」の概念が、どの程度のレベルで適用されるのかを、きわどい事例を用いることで、生徒に深く考えさせる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>生徒が興味を持って取り組めるよう、身近で考えてみたくなるような課題を設定するとともに、写真資料と写真資料とのかかわりを読み取らせ、言葉で表現する活動を行う。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>生徒によって発言に違いが出やすく、他の生徒の発言を積極的に聴き合うことができるような課題を設定するとともに、班活動では話し合い方を明示し、練り上げの過程が円滑に進むように工夫する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>公共の福祉によって制約を受ける経済活動の自由について、身近な事例から考え、根拠に基づいて話し合うことが出来る。(発言)</p> </div>
まとめ	<p>4 課題についてまとめる。</p> <p>(1) 教師のまとめを聞く。</p> <p>(2) あらためて自分の考えをまとめ、自己評価表に授業の感想を書く。</p>	一斉 個別	7	<p>○公共の福祉による自由権の制約には明確な根拠が必要であることを伝える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>感想を考える際、必ず他の生徒の考えをふまえて、自分の考えをまとめるようにさせる。</p> </div> <p>○感想を書く時間が無い場合、次時までの課題とする。</p>

3 研究の考察

(1) 研究の成果

① 自己テーマについて

本時では経済活動の自由や公共の福祉といったこれまで学んできたことや、本時で学んだ知識を結びつけ、話し合いに生かすというねらいがあった。授業では「経済活動の自由」や「公共の福祉」「他の人の人権」「税金の使途」といったやや抽象的な語句を活用した班での話し合いや挙手発言が見られた。このことは、以前学んだ知識を引っ張り出して本時の話し合いに結びつけたり、話し合うために学ぶ場を設定できたという意味がある。社会の大きな問題について、他の生徒の発言を聞いて反応し、考え、発言するという話し合いの過程は、本時に限らず何度も繰り返すことで、社会に働きかける力が育成できるだろうという見通しをもつことができた。

② 思考力・判断力・表現力について

その深さに差はあるものの、ペット売買という身近なテーマが憲法とどう関わっているか考え、その適用のあり方を判断する部分までは、かなり多くの生徒が達成できた。

③ 言語活動の工夫について

比較的関心をもてるテーマについて○か×かという二者択一で判断させて理由を書かせるという段階までは、多くの生徒が到達できた。魅力的な学習課題の設定と、正解ではなく最善解を求めるといった教師の姿勢が浸透してきたものと思われる。また、単元を通して行ってきた話し合いの仕方が定着してきたことが感じられた。グループの中では堂々と自らの考えを述べ、また他の生徒の発言に積極的に反応する姿も多く見られた。

(2) 研究の課題

① 自己テーマについて

経済活動の自由の詳細な内容（ペットショップを営営するという経済活動の自由や、ペットを財産として捉える財産権の保障）や、前の単元で学習した対立と合意・効率と公平といった言葉が登場しなかった。また授業の感想やノートにもこれらの記述が無かった。これらのことから、表面的な知識・理解の結びつきにとどまっていたことが読み取れた。社会に働きかけるレベルにはほど遠いといえる。

② 思考力・判断力・表現力

憲法など、学習してきた知識を活用して結びつけて話し合うというよりも、倫理的な側面からの発言が目立つ授業になってしまった。授業のねらいである、「経済活動の自由と公共の福祉」との関連に十分迫ることができず、動物虐待といった倫理的な側面に話し合いが集中してしまい、倫理的な側面以外のとらえ方をしていた生徒の発言を十分引き出すことが出来なかった。例えば「殺処分する費用や、かみついたりほえる犬による被害」は、公共の福祉の観点からどのような問題であると言えるのかじっくり考えさせる場面を設定するなど必要だったように思う。

③ 言語活動の工夫

特に表現力の育成に直接関わる全体での話し合いにかけられる時間が絶対的に不足した。本時は2時間構成が求められたかもしれない。またじっくりと取り組めなかったことから、全体での発言者が少なくなってしまった。全体での発言を生徒がお互いに聴き合い、話合っていく時間こそが最も重要である。しかしながら時間は限られている。生徒の発表時間の確保は大きな課題である。

1 自己テーマについて

社会にはありとあらゆる問題があり、それらは主に話し合いによって解決されている。そのことは同時に、話し合いに参加できなければ社会に働きかけることは難しいことを意味している。よって社会科で育成すべき市民的資質の根幹となるのは、話し合い方や話し合う際の考え方（思考力・判断力・表現力）である。同時に話し合いは、確かな知識・理解に裏打ちされたものでなくてはならない。よく社会科は暗記教科であると言われるが、私は暗記だとは考えていない。それまでに学んだ知識・理解を結びつけながら活用し、話し合う場面を授業に設定すれば、「テストに出るから暗記する」から「結びつけ・考え・話し合うために必要だから覚える」ということになる。

さて、市民的分野は、そのまま社会生活に直結した内容を扱っているため、市民的資質を育てることができるかどうかは、市民的分野の学習にかかっている。特に人間の尊重と日本国憲法は、身近な問題を憲法の諸原理に照らして考えることが出来る単元である。よって身近な問題をもとに話し合い・討論といった言語活動を中心とした授業を組み立てることで、知識・理解を結びつけながら、話し合い方や話し合う際の考え方を身に付けさせることができると考えた。

2 授業の実際（生徒のノートを参照）

(1) 導入について

小テスト後授業テーマを板書。本時では自由権、特に経済活動の自由が制限されるのはどのような場合なのか考えることを伝える。

(2) 展開について

まずは本時で話し合うために必要な知識である「公共の福祉」の概念を学ぶ。次にペット

ショップの写真を提示し、生徒にわかることなどをノートに書かせ、次に発言を求める。生徒からはわかったにとどまらず挙手発言がある。生徒の疑問に対応して、教師からは用意していた資料を配布したり、説明するなどする。ペット売買の問題点が明らかになる中、教師から主発問である「ペットの売買を禁止するべきではないか。」との発問を行う。考える時間を確保し、ノートに書かせる。その後班で話合いの時間を取る。班での話合いは定着してきたせいか活発である。しかし時間が無くなり、残り15分を切ってしまった。よって班を戻して全体で傾向を聞く。○が10人、×が17人。全体での挙手発言を求めると、10名程度が挙手する。その後発言。しかし7～8人発言したところで残り時間が5分となる。

(3) まとめについて

生徒の発言を経済活動の自由や公共の福祉の概念から振り返り、まとめを板書。残り1分しかないが、自己評価表に授業の感想を書くように伝える。自己評価表は帰りまでに教科員に提出。

(4) 生徒の感想から

- ・今回はペットのことを考えましたが、ごみだつてたくさん出す人と、ルールを守ってリサイクルして少なく出す人がいる。社会ではただ乗りしている人が多くいて、不公平だと思いました。相馬市もお金が無いようだから、保健所にどんどん持って行かれたらおかしいと思いました。
- ・最初は動物の命のことばかり考えていたけど、動物がかわいそうだから売買禁止というんじゃないなくて、何でもお金儲けの道具にしたら社会はめちゃくちゃになるとも思った。公共の福祉は大切。
- ・公共の福祉の基準は難しい！ 命をお金で買ってはいけないと思います。だけど牛も豚もお金で買ってるし。線引きが難しい。